



インストール・ガイド



インストール・ガイド

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、65ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Rational Manual Tester (部品番号 5724-J29) バージョン 7.0.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典:	GI11-6748-02 Rational Manual Tester, Version 7.0 Installation Guide
発行:	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当:	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2007.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2007. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2007

目次

概説	1
IBM Installation Manager	1
IBM Rational Software Development Platform	2
インストール要件	3
ハードウェア要件	3
ソフトウェア要件	3
ユーザー特権についての要件	5
インストール計画	7
インストール・シナリオ	7
Manual Tester の以前のバージョンからのアップグレード	8
インストール・リポジトリ	9
Installation Manager のリポジトリ設定	10
パッケージ・グループおよび共用リソース・ディレクトリ	10
電子イメージの確認および解凍	13
ダウンロードしたファイルの解凍	13
プリインストール・タスク	15
インストール作業	17
Rational Manual Tester の CD-ROM からのインストール: タスクの概要	17
ワークステーション上の電子イメージからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要	18
電子イメージからのインストール	18
共用ドライブ上の電子イメージからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要	19
HTTP Web サーバー上のリポジトリからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要	19
HTTP Web サーバー上へ Rational Manual Tester を配置: タスクの概要	20
IBM Installation Manager の管理	21
Windows への Installation Manager のインストール	21
Windows での Installation Manager の開始	21
Windows での Installation Manager のアンインストール	22
Installation Manager のサイレント・インストールとアンインストール	22
Installation Manager のサイレント・インストール	22
Windows からの Installation Manager のサイレント・アンインストール	22

ランチパッド・プログラムからのインストール	23
ランチパッド・プログラムの開始	23
ランチパッド・プログラムからのインストールの開始	24
IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール	25
サイレント・インストール	29
Installation Manager を使用した応答ファイルの作成	29
Installation Manager インストーラーを使用した応答ファイルの記録	30
サイレント・モードでの Installation Manager のインストールと実行	31
すべての使用可能な製品の検索とサイレント・インストール	32
現在インストールされているすべての製品に対する更新のサイレント・インストール	33
応答ファイルのコマンド	33
サイレント・インストール設定コマンド	33
サイレント・インストール・コマンド	36
参照: サンプル応答ファイル	40
サイレント・インストール・ログ・ファイル	40
IBM Packaging Utility	43
Packaging Utility のインストール	43
Packaging Utility を使用した HTTP サーバーへの製品パッケージのコピー	44
ライセンスの管理	47
ライセンス	47
ライセンスの使用可能化	48
インストール済みパッケージのライセンス情報の表示	49
プロダクト・アクティベーション・キットのインポート	49
フローティング・ライセンスの使用可能化	50
ライセンスの購入	51
Rational Manual Tester の開始	53
インストールの変更	55
Rational Manual Tester の更新	57
Rational Manual Tester のアンインストール	59

更新のロールバック 61

オプション・ソフトウェアのインストール 63

ClearCase LT のインストール 63

ClearCase LT のインストール説明およびリリース
情報の探索 63

Rational ClearCase LT のインストールの開始 . . . 64

Rational ClearCase LT ライセンスの構成. . . . 64

特記事項 65

商標 66

概説

このインストール・ガイドには、IBM® Rational® Manual Tester のインストールおよびアンインストール方法が記載されています。

注: 文書の更新内容やトラブルシューティングの情報については、
<http://www.ibm.com/software/rational/support/documentation/> を参照してください。

IBM Installation Manager

IBM Installation Manager は、ワークステーションに Rational Manual Tester 製品パッケージをインストールするプログラムです。インストールしたこのパッケージや他のパッケージの更新、変更、およびアンインストールも行います。パッケージとは、Installation Manager によってインストールされるよう設計された製品、複数コンポーネントのグループ、または単一のコンポーネントです。

IBM Installation Manager は、時間を節約するのに役立つ多数の機能を提供します。インストールしようとしているパッケージ、インストール済みのソフトウェア・コンポーネント、およびインストール用に使用可能なコンポーネントを追跡します。更新を検索するので、最新バージョンの Rational 製品パッケージをインストールしていることがわかります。また、Installation Manager は、インストールした製品パッケージのライセンス管理のためのツールを提供します。さらに、パッケージの更新と変更用のツールを提供します。Installation Manager を使用して、製品パッケージをアンインストールすることもできます。

IBM Installation Manager には 6 つのウィザードがあり、ライフ・サイクルを通じて製品パッケージの保守が簡単になります。

- 「パッケージのインストール」ウィザードは、インストール・プロセスを支援します。デフォルト設定を単に受け入れるか、デフォルト設定を変更してカスタム・インストールを作成することで、製品パッケージをインストールできます。製品パッケージのインストールを行う前に、ウィザードで選択したすべての項目の要約が表示されます。ウィザードを使用すると、1 つ以上の製品パッケージを一度にインストールできます。
- 「製品パッケージの更新」ウィザードは、インストール済みパッケージに使用可能な更新を検索します。更新は、リリース済みのフィックス、新規フィーチャー、または Rational 製品の新しいバージョンである可能性があります。ウィザードには更新内容の詳細が表示されます。更新を適用するかどうかを選択できます。
- 「パッケージの変更」ウィザードを使用すると、すでにインストール済みのパッケージから特定の要素を変更できます。製品パッケージの初期インストール時に、インストールするフィーチャーを選択します。後で他のフィーチャーが必要になった場合は、「パッケージの変更」ウィザードを使用して、それらを製品パッケージのインストールに追加できます。フィーチャーの除去、言語の追加または除去も可能です。

- 「ライセンスの管理」ウィザードを使用すると、パッケージのライセンスをセットアップできます。このウィザードを使用して、ライセンスの評価版を完全なライセンスに変更できます。また、フローティング・ライセンス用にサーバーをセットアップしたり、それぞれのパッケージにどのライセンス・タイプを使用するかを選択したりすることができます。
- 「パッケージのロールバック」ウィザードを使用すると、以前にインストールしたバージョンの適切なパッケージに戻すことができます。
- 「パッケージのアンインストール」ウィザードを使用すると、コンピューターから製品パッケージが除去されます。一度に複数のパッケージをアンインストールできます。

IBM Rational Software Development Platform

IBM Rational Software Development Platform は、複数の製品を共用する開発ワークベンチとその他のソフトウェア・コンポーネントを含む共通開発環境です。

開発プラットフォームには、以下が含まれています。

- Rational Application Developer
- Rational Functional Tester
- Rational Performance Tester
- Rational Software Architect
- Rational Software Modeler
- Rational Systems Developer
- Rational Tester for SOA Quality

Rational Manual Tester も使用可能ですが、このプラットフォームの一部ではありません。Manual Tester は、Rational Functional Tester と一緒に組み込まれていますが、別途購入することも可能です。

Rational Manual Tester について

IBM Rational Manual Tester は、手持ちのスクリプトに自動化機能を簡単に追加できる、シンプルかつ強力なエンドツーエンドのソリューションを提供します。これにより、技術を持たないユーザーでも、プログラミングやスクリプト作成をせずに容易に自動化できるキーワード駆動型の手動テストを開発することができます。

IBM Rational Manual Tester は、2 つのプロセス間を容易に遷移することにより、テスト・オーサリングとテストの実行をサポートします。テストを実行しながら、自動的にテスト結果のトラックを行い、テスト・ログを作成します。このログをスプレッドシート・アプリケーションにエクスポートして、さらに詳しく分析することができます。現在、Manual Tester は、IBM Rational ClearQuest® と完全に統合されているため、ClearQuest がインストール済みである場合は、手動テスト・スクリプトの作成およびテスト時に、欠陥の送信、更新、および追跡を行うことができます。CQTM を使用する場合は、Manual Tester 内からテスト・スイート (手動テストも含まれます) を作成し、実行することができます。

インストール要件

このセクションでは、ソフトウェアを正常にインストールし、実行するために満たす必要がある、ハードウェア、ソフトウェア、およびユーザー特権の要件について説明します。

ハードウェア要件

製品をインストールする前に、ご使用のシステムが最小ハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

ハードウェア	要件
プロセッサ	最小: 500 MHz Intel® Pentium® III (最適な結果を得るためには 1.4 GHz 以上) Intel Pentium 4
メモリー	最小: 512 MB RAM、キーワード・フィーチャーを使用するには 1 GB を推奨
ディスク・スペース	製品パッケージのインストール用として、最小: 700 MB のディスク・スペースが必要です。開発するリソース用に追加ディスク・スペースが必要です。 注: <ul style="list-style-type: none">この製品をインストールするための製品パッケージをダウンロードする場合は、追加のディスク・スペースが必要になります。Windows® の場合: NTFS の代わりに FAT32 を使用する場合は、追加のディスク・スペースが必要になります。Windows の場合: ご使用の環境変数 TEMP でポイントされるディレクトリーに、追加で 500 MB のディスク・スペースが必要となります。
ディスプレイ	最低でも 256 色を使用する 1024 x 768 のディスプレイ (最適な結果を得るためにはそれ以上)
その他のハードウェア	Microsoft® マウスまたは互換のポインティング・デバイス

ソフトウェア要件

製品をインストールする前に、ご使用のシステムがソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

オペレーティング・システム

次のオペレーティング・システムが、この製品でサポートされています。

- Microsoft Windows XP Professional (Service Pack 1 または2)
- Microsoft Windows 2000 Professional (Service Pack 4)
- Microsoft Windows 2000 Server (Service Pack 4)
- Microsoft Windows 2000 Advanced Server (Service Pack 4)
- Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (Service Pack 1)
- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (Service Pack 1)
- **(Rational Manual Tester バージョン 7.0.0.2 以降の場合)** Microsoft Windows Vista Business、Windows Vista Enterprise、および Windows Vista Ultimate

リストされているオペレーティング・システムでは、Rational Manual Tester でサポートされるすべての言語がサポートされます。

サポートされる仮想化ソフトウェア

次の仮想化ソフトウェアがサポートされます。

- Citrix Presentation Manager バージョン 4、Windows Server 2003 Standard Edition または Windows Server 2003 Professional Edition 上で稼働

追加のソフトウェア要件

- 以下の Web ブラウザーのいずれか (README ファイルと「インストール・ガイド」を表示し、Standard Widget Toolkit (SWT) ブラウザー・ウィジェットをサポートするために必要です)
 - Windows の場合: Microsoft Internet Explorer 6.0 (Service Pack 1) 以上
 - Mozilla 1.6 以上
 - Firefox 1.0.x、1.5、2.0 以上

注: ランチパッドでは Mozilla 1.6 がサポートされていません。ご使用のブラウザーが Mozilla の場合にランチパッドを実行するには、バージョン 1.7 以上が必要です。

- ツアー、チュートリアル、およびデモンストレーション・ビューレットなどのマルチメディア・ユーザー支援を正しく表示するには、Adobe® Flash Player をインストールする必要があります。
 - Windows の場合: バージョン 6.0 リリース 65 以上
- IBM Rational ClearQuest との統合の場合は、ClearQuest 7.0.0.1 を同じコンピューターにインストールする必要があります。
- Microsoft Word、Excel、または IBM Rational TestManager から文書をインポートするには、Word、Excel、または TestManager がインストールされている必要があります。また、Rational Manual Tester をインストールする前に、.NET Framework 再配布可能パッケージのバージョン 1.1 または 2.0 をインストールしておく必要があります。.Net をインストールする前に Rational Manual Tester をインストールする場合は、RMT70 ディレクトリー内の update_net バッチ・ファイルを実行する必要があります。

ユーザー特権についての要件

Rational Manual Tester をインストールするには、以下の要件を満たすユーザー ID が必要です。

- ユーザー ID には 2 バイト文字が含まれていてはいけません。
- Windows の場合: インストール時に必要となるユーザー特権は、ご使用のコンピューターの Windows バージョンによって決まります。
 - (**Rational Manual Tester バージョン 7.0.0.2 以降のみ**) **Windows Vista** の場合、管理者アカウントでログインして、次のタスクを実行します (あるいは、プログラム・ファイルまたはショートカットを右クリックし、「**管理者として実行**」を選択して、管理者として実行してください)。
 - IBM Installation Manager (Rational Manual Tester のインストールおよび更新を行うアプリケーション) をインストールまたは更新します。
 - 製品オフリングをインストールまたは更新します。
 - ご使用の製品の許可ユーザー・ライセンス・キーをインストールします。IBM Installation Manager を使用して、ライセンス・キーをインストールします。

注: 管理者ではないユーザーが Windows Vista システム上で Rational Manual Tester を操作するには、以下の点に注意してください。

- Rational Manual Tester を、Program Files ディレクトリー (C:¥Program Files¥) のパッケージ・グループ (インストール・ロケーション) にインストールしないでください。また、Program Files ディレクトリーの共有リソース・ディレクトリーを選択しないでください。
 - 既存の Eclipse インストールを拡張している場合、Program Files ディレクトリー (C:¥Program Files¥) に Eclipse をインストールしないでください。
- サポート対象である、その他の Windows バージョンの場合、管理者グループに属するユーザー ID を使用する必要があります。

インストール計画

どの製品フィーチャーをインストールする場合にも、事前にこのセクションのすべてのトピックをご一読ください。効果的なプランニングと、インストール・プロセスの主要な段階を理解することが、インストールの成功につながります。

インストール・シナリオ

Rational Manual Tester をインストールする際に使用できるシナリオは多数ありません。

以下に、インストール・シナリオを決定するであろう要素をいくつか挙げます。

- インストール・ファイルにアクセスするときに使用する形式および方式 (例えば、CD にアクセスする、IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードしたファイルにアクセスするなど)。
- インストールのロケーション (例えば、ご使用のワークステーション上に製品をインストールしたり、インストール・ファイルをお客様の社内で使用できるようにしたりすることができます)。
- インストールのタイプ (例えば、Installation Manager の GUI を使用したり、サイレント・インストールを行うことができます)。

典型的なインストール・シナリオには、以下のものがあります。

- CD からのインストール。
- ワークステーションにダウンロードした電子イメージからのインストール。
- 共用ドライブ上の電子イメージからのインストール。
- HTTP または HTTPS サーバー上のリポジトリからのインストール。

後の 3 つのシナリオでは、サイレント・モードで Installation Manager プログラムを実行して、Rational Manual Tester をインストールするように選択できます。Installation Manager のサイレント・モードでの実行の詳細については、29 ページの『サイレント・インストール』を参照してください。

基本製品パッケージのインストールと同時に、更新をインストールできることにも注意してください。

CD からのインストール

このインストール・シナリオでは、お客様は製品パッケージのファイルが含まれている CD を持っており、通常は、ご自身のワークステーション上に Rational Manual Tester をインストールします。このステップの概要については、17 ページの『Rational Manual Tester の CD-ROM からのインストール: タスクの概要』を参照してください。

ワークステーションにダウンロードした電子イメージからのインストール

このシナリオでは、お客様は IBM パスポート・アドバンテージからインストール・ファイルをダウンロードしており、ご自身のワークステーション上に Rational Manual Tester をインストールします。このステップの概要については、18 ページの『ワークステーション上の電子イメージからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要』を参照してください。

共用ドライブ上の電子イメージからのインストール

このシナリオでは、お客様は共用ドライブ上に電子イメージを置いて、社内のユーザーが 1 つのロケーションから Rational Manual Tester のインストール・ファイルにアクセスできるようにします。このステップの概要については、19 ページの『共用ドライブ上の電子イメージからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要』を参照してください。

HTTP サーバー上のリポジトリからのインストール

このシナリオは、ネットワークを通じて製品をインストールする最速の方式です。このシナリオは、共用ドライブ・インストールとは異なります。Rational Manual Tester の製品パッケージ・ファイルを HTTP Web サーバー上に配置するためには、IBM Packaging Utility というユーティリティー・アプリケーションを使用する必要があります。このユーティリティーは、Rational Manual Tester に提供されており、パッケージ形式のインストール・ファイルをコピーします。この形式を使用することにより、Rational Manual Tester を HTTP Web サーバーから直接インストールできます。パッケージが含まれている HTTP Web サーバー上のディレクトリは、リポジトリと呼ばれます。このシナリオでは、Rational Manual Tester のインストール・ファイルのみがパッケージ内にあることに注意してください。このステップの概要については、19 ページの『HTTP Web サーバー上のリポジトリからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要』および 20 ページの『HTTP Web サーバー上へ Rational Manual Tester を配置: タスクの概要』を参照してください。

Manual Tester の以前のバージョンからのアップグレード

Manual Tester をバージョン 6.1.x からアップグレードする場合、古いバージョンのソフトウェアを残したままバージョン 7.x をインストールすることもできますし、古いバージョンのソフトウェアをまずアンインストールしてからインストールすることもできます。

バージョン 6.1.x がインストールされた状態を保ちながらアップグレードすることにした場合、デフォルトのインストール設定を使用すればバージョン 7.x がインストールされます。バージョン 7.x は、バージョン 6.1.x を使用して作成された再利用ファイルとカスタマイズ・ファイルを使用する点に注意してください。これらのファイルを使用しない場合には、インストール後に「設定」ダイアログ・ボックスの「メイン」ページでそれらを変更できます。(追加情報については、オンライン・ヘルプを参照してください。)

既存のマニュアル・テスト・スクリプトをマニュアル・テスト・プロジェクトに移動することができます。あるいは、プロジェクト・ベースでない場合は、任意のディレクトリーに移動できます。プロジェクトを作成せずに **Manual Tester** の以前のバージョンから単にスクリプトをマイグレーションするには、現行バージョンでスクリプトを開いて、プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。スクリプトのマイグレーション後は、以前のバージョンでそれを開くことはできません。キーワードやデータ・プールなどのフィーチャーを活用するには、プロジェクト・ベースのスクリプト保管モデルに移行する必要があります。

新規プロジェクトの作成時に既存のスクリプトの一部またはすべてを含めることもできますし、プロジェクトの作成後にそれらを追加することもできます。共用する再利用ステートメントは、キーワードとして指定され、さまざまなロケーションにあるスクリプト内ではなく、プロジェクト内のキーワード・ライブラリーで保守されます。再利用ステートメントを含むスクリプトをマイグレーションする場合は、まず、そのステートメントに明示的な **Name** プロパティーを割り当てておくのが最善です。そうしない場合は、再利用ステートメントの最初の 32 文字がキーワード名として使用されます。

古いバージョンのテスト・スクリプトを維持する必要がある場合は、必ず新しいバージョンを別のロケーションに保存してください。

バージョン 7.x をインストールし、スクリプトをマイグレーションしたら、バージョン 6.1.x をアンインストールすることをお勧めします。技術的には同じコンピューター上で両方のバージョンを同時に使用することは可能ですが、これはお勧めしません。

インストール・リポジトリー

IBM Installation Manager は、指定のリポジトリー・ロケーションから製品パッケージを取得します。

ランチパッドを使用して **Installation Manager** を開始すると、リポジトリー情報が **Installation Manager** に渡されます。 **Installation Manager** を直接開始した場合は、インストールする製品パッケージが格納されたインストール・リポジトリーを指定する必要があります。 10 ページの『**Installation Manager** のリポジトリー設定』を参照してください。

製品パッケージをイントラネットに組み込み、ホスティングする企業や組織もあるでしょう。この種のインストール・シナリオについては、 8 ページの『**HTTP** サーバー上のリポジトリーからのインストール』を参照してください。システム管理者から正しい URL を提供してもらう必要があります。

デフォルトでは、**IBM Installation Manager** は、各 **Rational** ソフトウェア開発製品に組み込まれている URL を使用して、インターネットを介してリポジトリー・サーバーに接続します。その後、**Installation Manager** が製品パッケージと新規フィーチャーを検索します。

Installation Manager のリポジトリ設定

Rational Manual Tester のインストールをランチパッド・プログラムから開始する場合は、IBM Installation Manager の開始時に、インストールする製品パッケージを含むリポジトリのロケーションが Installation Manager に自動的に定義されます。しかし、直接 Installation Manager を開始する場合 (例えば、Rational Manual Tester を Web サーバー上にあるリポジトリからインストールする場合) は、まず Installation Manager でリポジトリ設定 (製品パッケージが含まれるディレクトリーの URL) を指定しておかなければ、製品パッケージはインストールできません。このリポジトリ・ロケーションは、「設定」ウィンドウの「リポジトリ」ページで指定します。デフォルトでは、IBM Installation Manager は、各 Rational ソフトウェア開発製品に組み込まれている URL を使用して、インターネットを介してリポジトリ・サーバーに接続し、インストール可能なパッケージおよび新規フィーチャーを検索します。組織によっては、イントラネット・サイトを使用するためにリポジトリをリダイレクトする必要があります。

注: インストール・プロセスを開始する前に、必ず管理者からインストール・パッケージのリポジトリの URL を取得してください。

Installation Manager でリポジトリ・ロケーションを追加、編集、または除去するには、以下のようにします。

1. Installation Manager を開始します。
2. Installation Manager の「スタート」ページで、「ファイル」→「設定」をクリックしてから「リポジトリ」をクリックします。「リポジトリ」ページが開きます。このページには、使用可能なリポジトリ、そのロケーション、およびアクセス可能かどうかが表示されます。
3. 「リポジトリ」ページで、「リポジトリの追加」をクリックします。
4. 「リポジトリの追加」ウィンドウで、リポジトリ・ロケーションの URL を入力するか、ブラウズしてファイル・パスを設定します。
5. 「OK」をクリックします。HTTPS または制限付き FTP リポジトリ・ロケーションを指定した場合は、ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。新規または変更されたリポジトリ・ロケーションがリストされます。リポジトリがアクセス不可の場合は、「接続」列に赤い x が表示されます。
6. 「OK」をクリックして終了します。

注: インストール済みパッケージのデフォルトのリポジトリ・ロケーションを Installation Manager が検索できるように、「リポジトリ」の設定ページで「インストールと更新を行っている間にサービス・リポジトリをサーチします」の設定が選択されていることを確認します。この設定はデフォルトで選択されています。

パッケージ・グループおよび共用リソース・ディレクトリー

IBM Installation Manager を使用して Rational Manual Tester パッケージをインストールする場合は、パッケージ・グループおよび共用リソース・ディレクトリーを選択する必要があります。

パッケージ・グループ

インストール・プロセス中に、Rational Manual Tester パッケージの新しいパッケージ・グループを指定する必要があります。あるいは、デフォルトを使用することもできます。

パッケージ・グループには自動的に名前が割り当てられます。ただし、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは選択できます。

製品パッケージのインストールが成功し、パッケージ・グループが作成された後に、インストール・ディレクトリーを変更することはできません。インストール・ディレクトリーには、パッケージ・グループにインストールされた Rational Manual Tester 製品パッケージに固有のファイルおよびリソースが含まれます。他のパッケージに使用される可能性のある製品パッケージ内のリソースは、共用リソース・ディレクトリーに置かれます。

重要: (Rational Manual Tester バージョン 7.0.0.2 以降のみ) 管理者特権を持たないユーザーが Rational Manual Tester を Windows Vista オペレーティング・システム上で操作するには、Program Files ディレクトリー (C:\Program Files) 内のディレクトリーを選択しないでください。

共用リソース・ディレクトリー

共用リソース・ディレクトリーは、1 つ以上の製品パッケージ・グループで使用できるインストール作成物を配置するディレクトリーです。

重要:

- 共用リソース・ディレクトリーは、パッケージの初回インストール時に指定できます。最適な結果が得られるように、これには一番大きいドライブを使用してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、ディレクトリー・ロケーションを変更することはできません。
- (Rational Manual Tester バージョン 7.0.0.2 以降のみ) 管理者特権を持たないユーザーが Rational Manual Tester を Windows Vista システム上で操作するには、Program Files ディレクトリー (C:\Program Files) 内のディレクトリーを選択しないでください。

電子イメージの確認および解凍

IBM パスポート・アドバンテージからインストール・ファイルをダウンロードした場合は、圧縮ファイルから電子イメージを解凍してから、Rational Manual Tester をインストールしてください。

インストール・ファイルをダウンロードするために「Download Director」オプションを選択すると、「Download Director」アプレットによって、処理される各ファイルの完全性が自動的に検査されます。

ダウンロードしたファイルの解凍

圧縮ファイルは、それぞれ同じディレクトリーに解凍します。

プリインストール・タスク

製品をインストールする前に、以下のステップを実行しておく必要があります。

1. ご使用のシステムが 3 ページの『インストール要件』のセクションに記載されている要件を満たしていることを確認します。
2. ご使用のユーザー ID が製品のインストールに必要なアクセス権を満たしていることを確認します。5 ページの『ユーザー特権についての要件』を参照してください。
3. 7 ページの『インストール計画』のセクションを一読します。

インストール作業

以降のセクションでは、セクション7ページの『インストール・シナリオ』に記載されているインストール・シナリオの概要を示します。詳しい説明には、メイン・ステップのリンクからアクセスできます。

Rational Manual Tester の CD-ROM からのインストール: タスクの概要

このインストール・シナリオでは、インストール・ファイルが含まれている CD を持っており、通常は、そこからワークステーション上に Rational Manual Tester をインストールします。

CD からインストールする一般的な手順は、次のとおりです。

1. 15 ページの『プリインストール・タスク』 にリストされているプリインストールのステップをすべて実行します。
2. 1 枚目のインストール CD を CD ドライブに挿入します。
3. システムで自動実行が使用可能になっている場合は、Rational Manual Tester ランチパッド・プログラムが自動的に開きます。自動実行が使用不可の場合は、ランチパッド・プログラムを開始してください。詳しくは、23 ページの『ランチパッド・プログラムの開始』を参照してください。
4. ランチパッドから Rational Manual Tester のインストールを開始します。詳しくは、24 ページの『ランチパッド・プログラムからのインストールの開始』を参照してください。

IBM Installation Manager がワークステーション上に検出されない場合は、それをインストールしてから続行する必要があります。ウィザードのスクリーン内の指示に従って、Installation Manager のインストールを完了します。詳しくは、21 ページの『Windows への Installation Manager のインストール』を参照してください。

Installation Manager のインストールが完了したら、あるいは、既にコンピュータ上にある場合は、Installation Manager が自動的に開始します。

5. 「パッケージのインストール」をクリックし、「パッケージのインストール」ウィザードのスクリーン内の指示に従って、インストールを完了します。詳しくは、25 ページの『IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール』を参照してください。
6. ライセンスを構成します。デフォルトで、Rational Manual Tester のトライアル・ライセンスが含まれています。引き続き製品にアクセスできるように、ライセンスを構成する必要があります。詳しくは、47 ページの『ライセンスの管理』を参照してください。
7. Rational Manual Tester と一緒に組み込まれているオプション・ソフトウェアをインストールします。

ワークステーション上の電子イメージからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要

電子インストール・イメージから Rational Manual Tester をインストールする場合の一般的な手順は、次のとおりです。

1. IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードする必要があるファイルと抽出したインストール・イメージの両方を保管するのに十分なスペースが、ワークステーションにあることを確認してください。3 ページの『ハードウェア要件』を参照してください。
2. IBM パスポート・アドバンテージから製品イメージの必要な部分を、一時ディレクトリーにすべてダウンロードします。
3. ダウンロードしたファイルからインストール・イメージを抽出し、インストール・イメージが完全であることを確認します。詳しくは、13 ページの『電子イメージの確認および解凍』を参照してください。
4. 続けて、下記の『電子イメージからのインストール』のステップを実行します。

電子イメージからのインストール

1. 15 ページの『プリインストール・タスク』にリストされているプリインストールのステップをすべて実行します。
2. ランチパッド・プログラムを開始します。詳しくは、23 ページの『ランチパッド・プログラムの開始』を参照してください。
3. ランチパッドから Rational Manual Tester のインストールを開始します。詳しくは、24 ページの『ランチパッド・プログラムからのインストールの開始』を参照してください。

IBM Installation Manager がワークステーション上に検出されない場合は、それをインストールしてから続行する必要があります。ウィザードのスクリーン内の指示に従って、Installation Manager のインストールを完了します。詳しくは、21 ページの『Windows への Installation Manager のインストール』を参照してください。

Installation Manager のインストールが完了したら、あるいは、既にシステム上にある場合は、Installation Manager が自動的に開始します。

注: 製品のインストールが完了する前に Installation Manager を終了した場合、ランチパッドから Installation Manager を再開する必要があります。Installation Manager を直接開始すると、必要なインストール・リポジトリーで事前構成されません。

4. 「パッケージのインストール」ウィザードのスクリーン内の説明に従って、インストールを完了します。詳しくは、25 ページの『IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール』を参照してください。
5. ライセンスを構成します。デフォルトで、Rational Manual Tester のトライアル・ライセンスが含まれています。引き続き製品にアクセスできるように、ライセンスを構成する必要があります。詳しくは、47 ページの『ライセンスの管理』を参照してください。

6. Rational Manual Tester と一緒に組み込まれているオプション・ソフトウェアをインストールします。

共用ドライブ上の電子イメージからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要

このシナリオでは、お客様は共用ドライブ上に電子イメージを置いて、社内のユーザーが 1 つのロケーションから Rational Manual Tester のインストール・ファイルにアクセスできるようにします。

共用ドライブ上にインストール・イメージを置く人が、以下のステップを実行します。

1. IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードする必要のあるファイルと抽出したインストール・イメージの両方を保管するのに十分なディスク・スペースが、共用ドライブにあることを確認してください。詳しくは、3 ページの『ハードウェア要件』を参照してください。
2. IBM パスポート・アドバンテージから製品イメージの必要な部分を、共用ドライブ上の一時ディレクトリーにすべてダウンロードします。
3. インストール・イメージをダウンロードしたファイルから共用ドライブ上のアクセス可能なディレクトリーに抽出し、インストール・イメージが完全であることを確認します。詳しくは、13 ページの『電子イメージの確認および解凍』を参照してください。

共用ドライブ上のインストール・ファイルから Rational Manual Tester をインストールするには、以下のようにします。

1. インストール・イメージが含まれている共用ドライブの disk1 ディレクトリーに移動します。
2. 18 ページの『電子イメージからのインストール』のステップに従います。

HTTP Web サーバー上のリポジトリーからの Rational Manual Tester のインストール: タスクの概要

このシナリオでは、製品パッケージは IBM Installation Manager によって HTTP Web サーバーから取得されます。

以下のステップは、Rational Manual Tester パッケージを含むリポジトリーが HTTP Web サーバー上に作成されていることを前提としています。

Rational Manual Tester パッケージを HTTP サーバー上のリポジトリーからインストールするには、以下のようにします。

1. 15 ページの『プリインストール・タスク』 にリストされているプリインストールのステップをすべて実行します。
2. IBM Installation Manager をインストールします。21 ページの『IBM Installation Manager の管理』を参照してください。このシナリオでは、例えば Installation Manager のインストール・ファイルは共用ドライブから入手できます。
3. 「Installation Manager」を開始します。詳しくは、21 ページの『Windows での Installation Manager の開始』を参照してください。

4. Rational Manual Tester パッケージが含まれているリポジトリの URL を、Installation Manager のリポジトリとして設定します。10 ページの『Installation Manager のリポジトリ設定』を参照してください。
5. Installation Manager で「パッケージのインストール」ウィザードを開始し、「パッケージのインストール」ウィザードのスクリーン内の指示に従って、インストールを完了します。詳しくは、25 ページの『IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール』を参照してください。
6. ライセンスを構成します。デフォルトで、Rational Manual Tester のトライアル・ライセンスが含まれています。ライセンスを設定して、引き続きアクセスして製品で作業ができることを確認してください。詳しくは、47 ページの『ライセンスの管理』を参照してください。
7. Rational Manual Tester と一緒に組み込まれているオプションのソフトウェアをインストールします。

HTTP Web サーバー上へ Rational Manual Tester を配置: タスクの概要

HTTP Web サーバー上にあるリポジトリから、インストールのために Rational Manual Tester を準備するには、次のようにします。

1. ご使用の HTTP または HTTPS Web サーバーに、製品パッケージを保管するのに十分なディスク・スペースがあることを確認します。3 ページの『ハードウェア要件』を参照してください。
2. IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードする必要のあるファイルと抽出したインストール・イメージの両方を保管するのに十分なディスク・スペースが、ワークステーションにあることを確認してください。3 ページの『ハードウェア要件』を参照してください。
3. IBM パスポート・アドバンテージから製品イメージの必要な部分を、ワークステーション上の一時ディレクトリにすべてダウンロードします。
4. ダウンロードしたファイルからインストール・イメージをワークステーション上の別の一時ディレクトリに抽出し、インストール・イメージが完全であることを確認します。詳しくは、13 ページの『電子イメージの確認および解凍』を参照してください。
5. ご使用のプラットフォームに適した補助 CD (または電子イメージ) から、ワークステーションに IBM Packaging Utility をインストールします。
6. Packaging Utility を使用して、Rational Manual Tester 製品パッケージをコピーします。
7. Packaging Utility の出力を HTTP または HTTPS Web サーバーにコピーします。
8. IBM Installation Manager のインストール・ファイルを、補助 CD から共用ドライブにコピーします。
9. 社内ユーザーに Installation Manager をインストールするよう指示します。
10. 以前に作成済みの Rational Manual Tester 製品パッケージが含まれているリポジトリの URL をユーザーに提供します。

IBM Installation Manager の管理

このセクションでは、IBM Installation Manager に関連するいくつかの共通タスクについて説明します。詳細については、Installation Manager オンライン・ヘルプを参照してください。

Windows への Installation Manager のインストール

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がまだワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に開始されます。(このプロセスの詳細については、23 ページの『ランチパッド・プログラムからのインストール』を参照してください。) それ以外の場合は、Installation Manager のインストールを手動で開始する必要があります。

Installation Manager のインストールを手動で開始するには、以下のようにします。

1. 1 枚目のインストール・ディスクの InstallerImage_win32 フォルダーから、install.exe を実行します。
2. 「パッケージのインストール」 ページで「次へ」をクリックします。
3. 「ご使用条件」 ページの使用条件を読み、「使用条件の条項に同意します」を選択して同意します。「次へ」をクリックします。
4. 必要に応じて、「宛先フォルダー」 ページの「参照」 ボタンをクリックして、インストール場所を変更します。「次へ」をクリックします。
5. 「要約」 ページで「インストール」 をクリックします。インストール・プロセスが完了したら、プロセスが正常に行われたことを確認するメッセージが表示されます。
6. 「終了」 をクリックします。 IBM Installation Manager が開きます。

Windows での Installation Manager の開始

IBM Installation Manager は、ランチパッド・プログラムから開始してください。そうすると、Installation Manager が、リポジトリ設定を構成し、Rational Manual Tester パッケージを選択した状態で起動します。Installation Manager を直接開始した場合は、リポジトリの設定と製品パッケージの選択を手動で行う必要があります。詳しくは、7 ページの『インストール計画』を参照してください。

Installation Manager を手動で開始するには、以下のようにします。

1. タスクバーの「スタート」メニューを開きます。
2. 「すべてのプログラム」 → 「IBM Installation Manager」 → 「IBM Installation Manager」を選択します。

Windows での Installation Manager のアンインストール

Installation Manager をアンインストールするには、以下のようにします。

1. タスクバーの「スタート」メニューを開きます。
2. 「すべてのプログラム」 → 「IBM Installation Manager」 → 「IBM Installation Manager のアンインストール」を選択します。
3. 「アンインストール」ページで「次へ」をクリックします。 IBM Installation Manager がアンインストール対象として選択されます。
4. 「要約」ページで「アンインストール」をクリックします。

注: また、「コントロール パネル」を使用して Installation Manager をアンインストールすることもできます。この場合、「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」とクリックし、「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。「IBM Installation Manager」の項目を選択し、「削除」をクリックします。

Installation Manager のサイレント・インストールとアンインストール

IBM Installation Manager はサイレントでインストールおよびアンインストールすることができます。

Installation Manager のサイレント・インストール

Installation Manager をサイレントでインストールするには、インストーラーを unzip して eclipse サブディレクトリーに切り替えます。次に、以下のコマンドを使用します。

- Windows の場合: `installc --launcher.ini silent-install.ini -log <log file path and name>`。例えば、`installc --launcher.ini silent-install.ini -log c:¥mylogfile.xml` のようになります。

インストールの後に、Installation Manager または Installation Manager インストーラーを使用してパッケージをサイレントでインストールできます。

Windows からの Installation Manager のサイレント・アンインストール

Windows で Installation Manager をサイレントでアンインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. コマンド行から、Installation Manager の `uninstall` ディレクトリーに移動します。これは、デフォルトでは `C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥Installation Manager¥uninstall` です。
2. コマンド `uninstallc.exe --launcher.ini silent-uninstall.ini` を入力します。

ランチパッド・プログラムからのインストール

ランチパッド・プログラムを使用すると、1つのロケーションでリリース情報の表示およびインストール・プロセスの開始を行うことができます。

次の場合に、ランチパッド・プログラムを使用して Rational Manual Tester のインストールを開始します。

- 製品 CD からのインストール
- ローカル・ファイル・システム上の電子イメージからのインストール
- 共用ドライブ上の電子イメージからのインストール

インストール・プロセスをランチパッド・プログラムから開始すると、IBM Installation Manager は、既にコンピューター上にインストールされていない場合は自動的にインストールされ、Rational Manual Tester パッケージが含まれているリポジトリのロケーションで事前に構成された状態で起動します。Installation Manager を直接インストールして開始する場合は、手動でリポジトリ設定を行う必要があります。

ランチパッドからインストールするには、以下のようにします。

1. プリインストール・タスクをまだ行っていない場合は、15ページの『プリインストール・タスク』に記載されているプリインストール・タスクを完了します。
2. ランチパッド・プログラムを開始します。『ランチパッド・プログラムの開始』を参照してください。
3. Rational Manual Tester のインストールを開始します。24ページの『ランチパッド・プログラムからのインストールの開始』を参照してください。

「パッケージのインストール」ウィザードのスクリーン内の説明に従って、インストールを完了します。詳しくは、25ページの『IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール』を参照してください。

ランチパッド・プログラムの開始

プリインストール・タスクをまだ行っていない場合は、15ページの『プリインストール・タスク』に記載されているプリインストール・タスクを完了します。

CD からインストールする場合に、ワークステーション上で自動実行が使用可能になっているときは、1枚目のインストール・ディスクを CD ドライブに挿入すると、Rational Manual Tester ランチパッドが自動的に開始します。電子イメージからインストールする場合、もしくは、ワークステーション上で自動実行が未構成な場合は、ランチパッド・プログラムを手動で開始する必要があります。

ランチパッド・プログラムを開始するには、以下のようにします。

1. IBM Rational Manual Tester CD を CD ドライブに挿入します。

2. システムで自動実行が使用可能になっている場合は、IBM Rational Manual Tester ランチパッド・プログラムが自動的に開きます。システムで自動実行が使用不可の場合は、以下のようにします。
 - Windows の場合: CD のルート・ディレクトリーにある launchpad.exe を実行します。

ランチパッド・プログラムからのインストールの開始

1. ランチパッド・プログラムを開始します。
2. リリース情報をまだ読んでいない場合は、「リリース・ノート (Release notes)」をクリックしてお読みください。
3. インストールの開始準備ができたなら、「IBM Rational Manual Tester のインストール」をクリックします。
4. IBM Installation Manager がシステム上で検出されない場合、または以前のバージョンが既にインストールされている場合は、最新のリリースをインストールして続行する必要があります。
5. ウィザードのスクリーン内の指示に従って、IBM Installation Manager のインストールを完了します。詳しくは、21 ページの『Windows への Installation Manager のインストール』を参照してください。
6. IBM Installation Manager のインストールが正常に完了したら、「終了」をクリックしてウィザードを閉じます。インストールが完了したら、IBM Installation Manager が自動的に開きます。
7. 新規インストールの場合は、「パッケージのインストール」をクリックし、ウィザードのスクリーン内の指示に従ってインストール・プロセスを完了します。詳しくは、25 ページの『IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール』を参照してください。
8. 製品の更新の場合は、「パッケージの更新」をクリックし、ウィザードのスクリーン内の指示に従って更新プロセスを完了します。詳しくは、57 ページの『Rational Manual Tester の更新』を参照してください。

IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール

以下のステップでは、IBM Rational Manual Tester パッケージの Installation Manager GUI によるインストールについて説明します。

1. Installation Manager のスタート・ページで、「パッケージのインストール」をクリックします。

注: Installation Manager の新しいバージョンが検出されると、そのバージョンのインストールの確認を求めるプロンプトが表示されます。これを確認しないと、続行することはできません。「OK」をクリックして先に進みます。Installation Manager は自動的に、新しいバージョンのインストール、停止、再始動、および再開を実行します。

2. 「パッケージのインストール」ウィザードの「インストール」ページに、Installation Manager が検索したリポジトリ内で検出されたすべてのパッケージがリストされます。2 つのバージョンのパッケージが検出された場合は、最新バージョンまたは推奨バージョンのパッケージのみが表示されます。
 - Installation Manager で検出されたすべてのバージョンのパッケージを表示するには、「すべてのバージョンを表示」をクリックします。
 - 推奨パッケージのみの表示に戻すには、「推奨のみを表示」をクリックします。
3. IBM Rational Manual Tester パッケージをクリックすると、「詳細」ペインにその説明が表示されます。
4. IBM Rational Manual Tester パッケージに対する更新を検索するには、「他のバージョンおよび拡張の検査」をクリックします。

注: Installation Manager が定義済みの IBM 更新リポジトリ・ロケーションでインストール済みパッケージを検索するには、「リポジトリ」の設定ページで「インストールと更新を行っている間にリンクされたりリポジトリをサーチします」設定を選択する必要があります。この設定はデフォルトで選択されています。インターネットへのアクセスも必要です。

Installation Manager は、製品パッケージの定義済みの IBM 更新リポジトリで更新を検索します。リポジトリ・ロケーションを設定しておけば、そこも検索します。進行状況表示に検索状況が表示されます。基本製品パッケージのインストールと同時に更新もインストールできます。

5. IBM Rational Manual Tester パッケージの更新が検出されると、「パッケージのインストール」ページの該当する製品の下に「インストール・パッケージ」リストにそれらが表示されます。デフォルトでは、推奨される更新のみが表示されます。
 - 使用可能なパッケージ用に検出された更新をすべて表示するには、「すべてのバージョンを表示」をクリックします。
 - 「詳細」でパッケージの説明を表示するには、パッケージ名をクリックします。README ファイルやリリース・ノートなど、パッケージに関する追加

情報が入手可能な場合は、説明本文の最後に「詳細情報」リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、ブラウザに追加情報が表示されます。インストールするパッケージを完全に理解するためには、事前にすべての情報を検討しておくようにしてください。

6. インストールする IBM Rational Manual Tester パッケージおよびそのパッケージに対する更新 (ある場合) を選択します。依存関係のある更新は、自動でまとめて選択およびクリアされます。「次へ」をクリックして続けます。
7. 「ライセンス」ページで、選択したパッケージのご使用条件をお読みください。
 - a. ご使用条件のすべての条項に同意する場合は、「使用条件の条項に同意します」をクリックします。
 - b. 「次へ」をクリックして続けます。
8. 「ロケーション」ページで、「共用リソース・ディレクトリー」フィールドに共用リソース・ディレクトリー のパスを入力するか、デフォルト・パスを受け入れます。共用リソース・ディレクトリーには、1 つ以上のパッケージ・グループが共用できるリソースが含まれています。「次へ」をクリックして続けます。

重要: (*Rational Manual Tester* バージョン 7.0.1 以降のみ) Windows Vista 上で、初期インストールの実行とバージョン 7.0.1 への更新を同時に行っている場合、管理者特権を持たないユーザーが *Rational Manual Tester* で作業できるようにするには、Program Files ディレクトリー (C:\Program Files) 内のディレクトリーを選択しないでください。

デフォルト・パスは次のとおりです:

- Windows の場合: C:\Program Files\IBM\SDP70Shared

重要: 共用リソース・ディレクトリーは、パッケージの初回インストール時のみ指定できます。将来のパッケージの共用リソースに十分なスペースを確保するために、これには一番大きいディスクを使用してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、ディレクトリー・ロケーションを変更することはできません。

9. 次の「ロケーション」ページで、インストール・ディレクトリー のパスを入力するか、デフォルトのパスを受け入れます。
10. 「フィーチャー」ページの「言語」で、パッケージ・グループの言語を選択します。IBM Rational Manual Tester パッケージのユーザー・インターフェースおよびドキュメンテーションについて、対応する各国語翻訳がインストールされます。
11. 次の「フィーチャー」ページで、インストールするパッケージ・フィーチャーを選択します。現行の Manual Tester には、オプション・フィーチャーはありません。「次へ」をクリックして続けます。
12. IBM Rational Manual Tester パッケージをインストールする前に「要約」ページで選択項目を検討します。前のページで行った選択を変更したい場合は、「戻る」をクリックして変更を行います。選択がそのままであれば、「インストール」をクリックしてパッケージをインストールします。進行状況表示にインストールの完了パーセントが表示されます。

13. インストール・プロセスが完了したら、プロセスが正常に行われたことを確認するメッセージが表示されます。
 - a. 「**ログ・ファイルの表示**」をクリックして、新規ウィンドウで現行セッションのインストール・ログ・ファイルを開きます。続行するには、「インストール・ログ」ウィンドウを閉じる必要があります。
 - b. 「**終了**」をクリックして、選択したパッケージを起動します。「パッケージのインストール」ウィザードが閉じ、Installation Manager の「スタート」ページに戻ります。

サイレント・インストール

Rational Manual Tester 製品パッケージは、Installation Manager をサイレント・インストール・モードで実行してインストールできます。Installation Manager をサイレント・モードで実行する場合は、ユーザー・インターフェースは使用できません。代わりに、Installation Manager は応答ファイルを使用して、製品パッケージのインストールに必要なコマンドを入力します。また、Installation Manager インストーラーを使用して、Installation Manager をサイレント・インストールすることもできます。さらに、インストーラーを使用すると、製品パッケージをサイレント・インストールできます。

Installation Manager をサイレント・モードで実行すると、バッチ処理でスクリプトを通じて製品パッケージのインストール、更新、変更、およびアンインストールを行えるため便利です。

Rational Manual Tester パッケージをサイレント・インストールする前に、Installation Manager をインストールする必要があることに注意してください。Installation Manager のインストールについて詳しくは、21 ページの『IBM Installation Manager の管理』を参照してください。

サイレント・インストールには、必須のメインタスクが 2 つあります。

1. 応答ファイルの作成。
2. Installation Manager のサイレント・インストール・モードでの実行。

Installation Manager を使用した応答ファイルの作成

Installation Manager、または Installation Manager インストーラーで Rational Manual Tester 製品パッケージをインストールするときのアクションを記録して、応答ファイルを作成することができます。応答ファイルを記録すると、Installation Manager の GUI で選択した項目がすべて XML ファイルに保管されます。Installation Manager をサイレント・モードで実行すると、Installation Manager は XML 応答ファイルを使用して、パッケージが含まれているリポジトリの検索、インストールするフィーチャーの選択などを行います。

インストール (またはアンインストール) 用の応答ファイルを記録するには、以下のようになります。

1. コマンド行で、Installation Manager をインストールしたディレクトリーの eclipse サブディレクトリーに移動します。例:
 - Windows の場合: `cd C:\Program Files\IBM\Installation Manager\eclipse`
2. コマンド行で次のコマンドを入力して、Installation Manager を開始し、応答ファイルおよび (オプションで) ログ・ファイルのファイル名およびロケーションについては独自のものに置換します。
 - `IBMIM -record <応答ファイルのパスと名前> -log <ログ・ファイルのパスと名前>`。例えば、`IBMIM.exe -record c:\mylog\responsefile.xml -log c:\mylog\record_log.xml` のようにします。

- オプションの `-skipInstall <agentDataLocation>` 引数を追加すると、製品をインストールまたはアンインストールせずに、応答ファイルを記録できます。`<agentDataLocation>` は書き込み可能ディレクトリーでなければならないことに注意してください。この引数によって、Installation Manager は、製品をインストールせずにインストール・データを保存します。次の記録セッションでも同じ `<agentDataLocation>` を使用して、製品の更新または変更を記録したり、ライセンス管理を記録したりすることができます。`-skipInstall` 引数を使用しないインストール時に設定したインストール済み製品または設定 (リポジトリー設定を含む) は、保管されないことに注意してください。`-skipInstall` を使用すると、IM は製品をインストールせずにインストール・データを記録するだけなので、インストール速度が速くなります。

`skipInstall` 引数を使用するための構文は、`IBMIM -record <応答ファイルのパスと名前> skipInstall <エージェント・データ・ロケーションの書き込み可能ディレクトリー>` です。例えば、`IBMIM -record c:\mylog\responsefile.xml -skipInstall c:\temp\recordData` のようになります。

注: 入力するファイル・パスが存在することを確認してください。Installation Manager では、応答ファイルとログ・ファイル用のディレクトリーは作成されません。

3. 「パッケージのインストール」ウィザードのスクリーン内の説明に従って、インストール時の選択項目を選択します。詳しくは、25 ページの『IBM Installation Manager グラフィカル・インターフェースを使用した IBM Rational Manual Tester のインストール』を参照してください。
4. 「終了」をクリックして Installation Manager を閉じます。

コマンドで指定したロケーションに XML 応答ファイルが作成されます。

Installation Manager インストーラーを使用した応答ファイルの記録

Installation Manager インストーラーを使用すると、Installation Manager およびその他の製品のインストールを記録できます。

Installation Manager のインストールを記録するには、以下のステップを実行します。

1. Installation Manager を unzip し、eclipse ディレクトリーへ移動します。
2. 記録を開始するには、`install -record <応答ファイルのパスと名前> -skipInstall <agentDataLocation> -vmargs -Dcom.ibm.cic.agent.hidden=false` と入力します。

インストーラーを使用した製品インストールの記録

Installation Manager インストーラーを使用した製品インストールの記録を開始するには、以下のステップを実行します。

1. Installation Manager を unzip したロケーションにある eclipse ディレクトリーに移動します。
2. `install.ini` ファイルを開き、`-input` と `@osgi.install.area/install.xml` の 2 行を除去します。

3. コマンド `install -record <応答ファイルのパスと名前> -skipInstall <agentDataLocation>` (例えば、`install -record` など) を入力します。
4. `Installation Manager` を開始し、「パッケージのインストール」ウィザードを完了します。

サイレント・モードでの `Installation Manager` のインストールと実行

`Installation Manager` をインストールするには、`Installation Manager` インストーラーを使用し、コマンド行からサイレント・インストール・モードで製品パッケージをインストールするには、`Installation Manager` を使用します。

サイレント・モードでの実行方法に関するその他の資料については、`Installation Manager` の Web サイトを参照してください。例えば、認証 (ユーザー ID とパスワード) を必要とするリポジトリからのサイレント・インストールなどです。

次の表は、サイレント・インストール・コマンドで使用される引数を示したものです。

引数	説明
<code>-vm</code>	Java™ ランチャーを指定します。サイレント・モードでは、Windows の場合は必ず <code>java.exe</code> を使用し、その他のプラットフォームの場合は <code>java</code> を使用します。
<code>-nosplash</code>	スプラッシュ画面を抑制するように指定します。
<code>--launcher.suppressErrors</code>	JVM エラー・ダイアログを抑制するように指定します。
<code>-silent</code>	<code>Installation Manager</code> インストーラーまたは <code>Installation Manager</code> がサイレント・モードで実行されるように指定します。
<code>-input</code>	<code>Installation Manager</code> インストーラーまたは <code>Installation Manager</code> への入力として XML 応答ファイルを指定します。応答ファイルには、インストーラーまたは <code>Installation Manager</code> が実行するコマンドが含まれています。
<code>-log</code>	(オプション) サイレント・インストールの結果を記録するログ・ファイルを指定します。ログ・ファイルは XML ファイルです。

`Installation Manager` インストーラーと `Installation Manager` の両方に、初期化ファイルつまり `.ini` ファイル `silent-install.ini` があり、表に引数のデフォルト値が含まれています。

`Installation Manager` インストーラーは、`Installation Manager` をインストールするために使用します。`Installation Manager` をサイレント・インストールするには、以下のようにします。

Installation Manager をサイレントでインストールするには、インストーラーを unzip して eclipse サブディレクトリーに切り替えます。次に、以下のコマンドを使用します。

- Windows の場合: `installc --launcher.ini silent-install.ini -log <log file path and name>`。例えば、`installc --launcher.ini silent-install.ini -log c:\mylogfile.xml` のようになります。

Installation Manager がインストールされた後、それを使用して、他の製品をインストールできます。また、Installation Manager インストーラーを使用して、製品をインストールすることもできます。

Installation Manager をサイレント・モードで実行するには、eclipse サブディレクトリーから次のコマンドを実行します。

- Windows の場合: `IBMIMc.exe --launcher.ini silent-install.ini -input <応答ファイルのパスと名前> -log <ログ・ファイルのパスと名前>`。例えば、`IBMIMc.exe --launcher.ini silent-install.ini -input c:\mylog\responsefile.xml -log c:\mylog\silent_install_log.xml` のようになります。

Installation Manager インストーラーを使用して製品をサイレント・インストールするには、eclipse ディレクトリーから、次のコマンドを入力します。

- Windows の場合: `installc.exe --launcher.ini silent-install.ini -input <応答ファイルのパスと名前> -log <ログ・ファイルのパスと名前>`。例えば、`installc --launcher.ini silent-install.ini -input c:\mylog\responsefile.xml -log c:\mylog\silent_install_log.xml` のようになります。

Installation Manager インストーラーまたは Installation Manager がサイレント・インストール・モードで実行されます。応答ファイルが読み取られ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き込まれます。サイレント・インストール・モードで実行する場合、応答ファイルは必須ですが、ログ・ファイルはオプションです。この実行の結果、状況コードは成功時にはゼロ、失敗時はゼロ以外の数値が返されません。

すべての使用可能な製品の検索とサイレント・インストール

すべての使用可能な製品に対する更新をサイレントで検索してインストールすることができます。

すべての使用可能な製品を検索してサイレントでインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. コマンド行で、Installation Manager をインストールしたディレクトリーの eclipse サブディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを入力して実行します。応答ファイルおよびログ・ファイル (オプション) の個所には、ご使用のロケーションを指定してください。
 - Windows の場合: `IBMIMc.exe --launcher.ini silent-install.ini -installAll -log <ログ・ファイルのパスと名前>`

Installation Manager に認識されているすべての使用可能な製品がインストールされます。

現在インストールされているすべての製品に対する更新のサイレント・インストール

現在インストールされているすべての製品に対する更新をサイレントで検索してインストールすることができます。

すべての使用可能な製品に対する更新を検索してサイレントでインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. コマンド行で、**Installation Manager** をインストールしたディレクトリーの `eclipse` サブディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを入力して実行します。応答ファイルおよびログ・ファイル (オプション) の個所には、ご使用のロケーションを指定してください。
 - Windows の場合: `IBMIMc.exe --launcher.ini silent-install.ini -updateAll -log <ログ・ファイルのパスと名前>`

Installation Manager で認識されているすべての使用可能な製品の更新がインストールされます。

応答ファイルのコマンド

Installation Manager のサイレント・インストール機能を使用する場合は、**Installation Manager** で実行する必要があるすべてのコマンドを含む応答ファイルを作成する必要があります。これを行う際に推奨されるのは、**IBM Rational Manual Tester** パッケージのインストール時のアクションを記録することによって、応答ファイルを作成する、という方法です。ただし、応答ファイルは手動で作成したり編集したりすることができます。

応答ファイルのコマンドには、以下の 2 つのカテゴリーがあります。

- 「設定」コマンドは、「ファイル」→「設定」と選択したときに、**Installation Manager** で表示される設定 (リポジトリー・ロケーション情報など) を行う場合に使用します。
- サイレント・インストール・コマンドは、**Installation Manager** で「パッケージのインストール」ウィザードをエミュレートするために使用します。

サイレント・インストール設定コマンド

通常は「設定」ウィンドウを使用して設定を指定しますが、サイレント・インストール中に使用する応答ファイルに設定 (キーとして識別されます) を指定することもできます。

注: 応答ファイルには、複数の設定を指定できます。

応答ファイルに設定を定義する場合、使用する XML コードは次の例のようになります。

```
<preference
  name = "the key of the preference"
  value = "the value of the preference to be set">
</preference>
```

次の表を使用して、サイレント・インストール設定用のキーとそれに関連した値を識別します。

キー	値	注
com.ibm.cic.common.core.preferences.logLocation	Installation Manager のログ・ファイルのロケーションを指定します。	重要: このキーはオプションであり、テストとデバッグ用に設計されています。ログ・ファイルのロケーションが未指定である場合、サイレント・インストールと UI バージョンの Installation Manager は、ともに同じロケーションを使用します。
com.ibm.cic.license.policy.location	リモート・ライセンス・ポリシー・ファイルを置く場所を定義する URL を指定します。	
com.ibm.cic.common.core.preferences.http.proxyEnabled	True または False	「False」がデフォルト値です。
com.ibm.cic.common.core.preferences.http.proxyHost	ホスト名または IP アドレス	
com.ibm.cic.common.core.preferences.http.proxyPort	ポート番号	
com.ibm.cic.common.core.preferences.http.proxyUseSocks	True または False	「False」がデフォルト値です。
com.ibm.cic.common.core.preferences.SOCKS.proxyHost	ホスト名または IP アドレス	
com.ibm.cic.common.core.preferences.SOCKS.proxyPort	ポート番号	
com.ibm.cic.common.core.preferences.ftp.proxyEnabled	True または False	「False」がデフォルト値です。
com.ibm.cic.common.core.preferences.ftp.proxyHost	ホスト名または IP アドレス	
com.ibm.cic.common.core.preferences.ftp.proxyPort	ポート番号	

キー	値	注
com.ibm.cic.common.core.preferences.eclipseCache	c:¥IBM¥common (Windows) /opt/IBM/ common (Linux®) 注: 上記のパスは、この設定のデフォルト値です。通常、インストール・パッケージによって、この設定に独自の値が提供されます。	パッケージを既にインストールしてある場合は、このロケーションを変更できません。
com.ibm.cic.agent.core.pref.offering.service.repositories.areUsed	True または False	使用不可にするには、この設定を「False」に変更します。 「True」の場合は、製品のインストール時または更新時に、リンクされたすべてのリポジトリが検索されます。

キー	値	注
com.ibm.cic.common.core.preferences. preserveDownloadedArtifacts	True または False	<p>使用不可にするには、この設定を「False」に変更します。</p> <p>「True」の場合は、パッケージを前バージョンにロールバックするために必要なファイルが、システムに保管されます。</p> <p>「False」の場合、これらのファイルは保管されません。これらのファイルを保管しない場合、ロールバックするには、元のリポジトリまたはメディアに接続する必要があります。</p>

サイレント・インストール・コマンド

この表を参照すると、サイレント・インストール中に使用する応答ファイル・コマンドについてさらに詳細がわかります。

応答ファイルのコマンド	説明
<p>プロファイル</p> <pre><profile id="プロファイル (パッケージ・グループ) ID" installLocation="プロファイルの インストール・ロケーション"> <data key="キー 1" value="値 1"/> <data key="キー 2" value="値 2"/> </profile></pre>	<p>このコマンドは、パッケージ・グループ (またはインストール・ロケーション) を作成する場合に使用します。指定したパッケージ・グループがすでに存在する場合は、このコマンドの効果はありません。現時点では、プロファイルを作成すると、サイレント・インストールでは以下の 2 つのインストール・コンテキストも作成されます。1 つは Eclipse 向けで、もう 1 つは native 向けです。プロファイルは、インストール・ロケーションです。</p> <p>プロファイルのプロパティを設定するには、<data> 要素を使用します。</p> <p>現在サポートされているキーおよび関連する値は次のリストのとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • eclipseLocation キーは、 c:¥myeclipse¥eclipse など、既存の Eclipse ロケーション値を指定します。 • cic.selector.nl キーは、zh、ja、en など、自然言語 (NL) のロケール選択を指定します。 <p>注: NL 値が複数ある場合はコンマで区切ります。</p> <p>現在サポートされている言語コードは次のリストのとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英語 (en) • フランス語 (fr) • イタリア語 (it) • 中国語 (簡体字) (zh) • ロシア語 (ru) • 中国語 (繁体字) (台湾) (zh_TW) • 中国語 (繁体字) (香港) (zh_HK) • ドイツ語 (de) • 日本語 (ja) • ポーランド語 (pl) • スペイン語 (es) • チェコ語 (cs) • ハンガリー語 (hu) • 韓国語 (ko) • ポルトガル語 (pt_BR)

応答ファイルのコマンド	説明
<pre> リポジトリ <server> <repository location="http://example/ repository/"> <repository location="file:/C:/ repository/"> <!--add more repositories below--> <...> </server> </pre>	<p>このコマンドは、サイレント・インストール中に使用するリポジトリを指定する場合に使用します。リモート・リポジトリを指定する場合は URL または UNC パスを使用し、ローカル・リポジトリを指定する場合はディレクトリー・パスを使用します。</p>
<pre> インストール <install> <offering profile= "プロファイル ID" features= "フィーチャー ID" id= "製品 ID" version= "製品バージョン"></offering> <!--add more offerings below> <...> </install> </pre>	<p>このコマンドを使用して、インストールするインストール・パッケージを指定します。</p> <p>プロファイル ID は、既存のプロファイル、またはプロファイル設定コマンドで作成されたプロファイルと一致している必要があります。</p> <p>フィーチャー ID は、コンマで区切られたリスト (「feature1, feature2」など) によって、オプションで指定できます。フィーチャー ID が指定されていない場合は、指定の製品のすべてのデフォルト・フィーチャーがインストールされます。</p> <p>バージョン番号は必要ありません。バージョンが指定されなかった場合は、Installation Manager によって、指定された ID を持つ最新の製品、および入手可能な更新とフィックスがインストールされます。</p> <p>注: 必須のフィーチャーは、コンマで区切られたリストで明示的に指定されていない場合であっても、インストール用に含まれます。</p>
<pre> <install modify="true"> または <uninstall modify="true"> (オプション属性) <uninstall modify="true"> <offering profile="profileID" id="Id" version="Version" features="-"/> </uninstall> </pre>	<p>既存のインストールを変更することを指示する場合は、install コマンドおよび uninstall コマンドの <install modify="true"> 属性を使用します。この属性が true に設定されていない場合、値はデフォルトで false に設定されます。変更操作を、追加の言語パックをインストールすることだけを目的に行う場合、製品フィーチャー ID リストでハイフン「-」を使用して、新しいフィーチャーを追加するわけではないことを指示する必要があります。</p> <p>重要: 例で指定しているように、「modify=true」とハイフン“-”から成るフィーチャー・リストを指定してください。そうしないと、install コマンドでは製品のデフォルト・フィーチャーがインストールされ、uninstall コマンドではすべてのフィーチャーが除去されます。</p>

応答ファイルのコマンド	説明
<p>アンインストール</p> <pre><uninstall> <offering profile= "プロファイル ID" features= "フィーチャー ID" id= "製品 ID" version= "製品バージョン"></offering> <!--add more offerings below> <...> </uninstall></pre>	<p>このコマンドは、アンインストールするパッケージを指定する場合に使用します。</p> <p>プロファイル ID は、既存のプロファイル、またはプロファイル・コマンドで指定されたプロファイルに一致している必要があります。さらに、フィーチャー ID が指定されていない場合は、指定の製品のすべてのフィーチャーがアンインストールされます。製品 ID が指定されていない場合は、指定のプロファイル内のすべてのインストール済み製品がアンインストールされます。</p>
<p>ロールバック</p> <pre><rollback> <offering profile= "プロファイル ID" id= "製品 ID" version= "製品バージョン"> </offering> <!--add more offerings below <...> </rollback></pre>	<p>このコマンドは、指定したオフリングを、指定したプロファイルに現在インストールされているバージョンからロールバックする場合に使用します。 rollback コマンドでフィーチャーを指定することはできません。</p>
<p>すべてインストール</p> <pre><installALL/></pre> <p>注: このコマンドは、 -silent -installAll</p> <p>を使用した場合と同等です。</p>	<p>このコマンドは、すべての使用可能なパッケージをサイレントで検索し、インストールする場合に使用します。</p>
<p>すべて更新</p> <pre><updateALL/></pre> <p>注: このコマンドは、 -silent -updateAll</p> <p>を使用した場合と同等です。</p>	<p>このコマンドは、すべての使用可能なパッケージをサイレントで検索し、更新する場合に使用します。</p>
<p>ライセンス</p> <pre><license policyFile="ポリシー・ファイルのコマンド"></pre> <p>例: <license policyFile="c:\mylicense.opt"/></p>	<p>このコマンドは、レコード・モードで Installation Manager を始動してからライセンス・ウィザードを開始することで、license コマンドを入れる応答ファイルを生成する場合に使用します。</p> <p>レコード・モード時に、ライセンス管理ウィザードでフレックス・オプションを設定すると、設定されたオプションは、生成された応答ファイルと同じディレクトリーにある「license.opt」という名前のライセンス・ポリシー・ファイルに記録されます。応答ファイルには、そのポリシー・ファイルを参照する license コマンドが入ります。</p>

応答ファイルのコマンド	説明
ウィザード <pre><launcher -mode wizard -input < response file ></pre>	このコマンドは、UI モードで Installation Manager を始動する場合に使用します。UI モードでは、インストール・ウィザードまたはアンインストール・ウィザードのいずれかで、Installation Manager を始動します。ただし、この場合、応答ファイルには preference コマンドと install コマンド、または preference コマンドと uninstall コマンドしか入れることができません。Installation Manager を UI モードで実行する場合は、同じ応答ファイルに install コマンドと uninstall コマンドを一緒に入れることはできません。

参照: サンプル応答ファイル

XML ベースの応答ファイルを使用すると、サイレント・インストール設定、リポジトリのロケーション、インストール用プロファイルなどの事前定義情報を指定できます。応答ファイルは、インストール・パッケージをサイレントでインストールし、インストール・パッケージのロケーションと設定を標準化するチームや会社に役に立ちます。

サンプル応答ファイル
<pre><agent-input > <!-- add preferences --> <preference name="com.ibm.cic.common.core.preferences. http.proxyEnabled" value="c:/temp"/> <!-- create the profile if it doesn't exist yet --> <profile id="my_profile" installLocation="c:/temp/my_profile"></profile> <server> <repository location= "http://a.site.com/local/products/sample/20060615_1542/repository/"></repository> </server> <install> <offering profile= "my_profile" features= "core" id= "ies" version= "3.2.0.20060615"> </offering> </install> </agent-input></pre>

サイレント・インストール・ログ・ファイル

サイレント・インストール・ログ・ファイルを使用すると、サイレント・インストール・セッションの結果を検査できます。

サイレント・インストール機能によって、XML ベースのログ・ファイルが作成されます。このログ・ファイルには、サイレント・インストールを実行した結果が記録されます。これは、`-log <ログ・ファイル・パス>.xml` を使用して、ログ・ファイル・パスが指定されている場合です。サイレント・インストール・セッションが正常に行われた場合、ログ・ファイルには、`<result> </result>` のルート要素のみが

含まれます。しかし、インストール中にエラーが発生した場合は、以下のようなエラー要素が、メッセージとともにサイレント・インストール・ログ・ファイルに記録されます。

```
<result>
  <error> Cannot find profile: profile id</error>
  <error> some other errors</error>
</result>
```

詳細な分析については、**Installation Manager** データ域に生成されたログを参照してください。設定コマンドを使用することにより、選択したロケーションにデータ域をオプションで設定できます (応答ファイルのトピックを参照)。

IBM Packaging Utility

IBM Packaging Utility ソフトウェアを使用すると、製品パッケージをリポジトリにコピーできます。リポジトリは、HTTP または HTTPS を介して使用可能な Web サーバーに置くことができます。

Packaging Utility ソフトウェアは、Rational Manual Tester に同梱されている、各プラットフォーム用の補助 CD にあります。Rational Manual Tester パッケージを含まりポジトリを HTTP または HTTPS 上で使用可能な Web サーバーに置く場合は、Packaging Utility を使用して、Rational Manual Tester 製品パッケージをリポジトリにコピーする必要があります。

このユーティリティを使用して、以下のタスクを実行します。

- 製品パッケージ用新規リポジトリの生成。
- 新規リポジトリへの製品パッケージのコピー。複数の製品パッケージを 1 つのリポジトリにコピーできます。したがって、組織内に共通のロケーションを作成し、そこから IBM Installation Manager を使用して製品をインストールできます。
- リポジトリからの製品パッケージの削除。

Packaging Utility の使用方法について詳しくは、このツールのオンライン・ヘルプを参照してください。

Packaging Utility のインストール

IBM Packaging Utility を使用して Rational Manual Tester 製品パッケージをコピーするには、事前に補助 CD からこのユーティリティをインストールしておく必要があります。

次のステップに従って、IBM Packaging Utility ソフトウェアを補助 CD からインストールしてください。

1. 適切なプラットフォームの補助 CD までナビゲートします。
2. PackagingUtility ディレクトリ内の圧縮ファイル (pu.disk_platform.zip) から、Packaging Utility インストール・ファイルを解凍します。
3. Packaging Utility インストール・ファイルを見つけます。
 - Windows の場合: Windows の補助 CD の PackagingUtility ディレクトリに移動します。(電子イメージをダウンロードした場合は、AuxCD-Windows¥PackagingUtility ディレクトリに移動します。)
4. Packaging Utility インストール・ファイルを単一のディレクトリに解凍します。圧縮ファイルのディレクトリ構造を保持してください。
 - Windows の場合: pu.disk_win32.zip ファイルの内容を解凍します。
5. Packaging Utility インストール・ファイルを解凍したディレクトリに移動し、インストール・プログラムを開始します。
 - Windows の場合: install_win32.exe を実行します。

6. IBM Installation Manager がワークステーション上に検出されない場合は、それをインストールするようプロンプトが表示され、インストール・ウィザードが開始します。ウィザードのスクリーン内の指示に従って、Installation Manager のインストールを完了します。詳しくは、21 ページの『Windows への Installation Manager のインストール』を参照してください。
7. Installation Manager のインストールが完了したら、あるいは、すでにコンピューター上にある場合は、Installation Manager が開始し、自動的に「パッケージのインストール」ウィザードが開始します。
8. 「パッケージのインストール」ウィザードのスクリーン内の説明に従って、インストールを完了します。

Packaging Utility を使用した HTTP サーバーへの製品パッケージのコピー

HTTP または HTTPS サーバー上にリポジトリを作成する場合は、Packaging Utility を使用して、Rational Manual Tester の製品パッケージをコピーする必要があります。

この方法では、Rational Manual Tester インストール・イメージと一緒に組み込まれているオプション・ソフトウェアはコピーされないことに注意してください。IBM Installation Manager を使用してインストールされる Rational Manual Tester ファイルしかコピーされません。

また、Packaging Utility を使用すると、複数の製品パッケージを 1 つのリポジトリ・ロケーションにまとめることができます。詳しくは、Packaging Utility のオンライン・ヘルプを参照してください。

Packaging Utility を使用して製品パッケージをコピーするには、以下のようになります。

1. CD イメージからコピーする場合は、以下のタスクを実行します。
 - a. 1 枚目のインストール CD を CD ドライブに挿入します。
 - b. システムで自動実行が使用可能になっている場合は、Rational Manual Tester ランチパッド・プログラムが自動的に開きます。ランチパッド・プログラムを閉じます。
2. Packaging Utility を開始します。
3. ユーティリティのメインページで、「製品パッケージのコピー」をクリックします。「前提条件」ページが開き、以下の 2 つのオプションが表示されます。
 - **IBM Web から製品パッケージをダウンロードします**
 - **他のソースから製品パッケージを取得します**
4. 「**IBM Web から製品パッケージをダウンロードします**」をクリックします。

注: すでにアクセス可能なリポジトリを定義している場合は、「**他のソースから製品パッケージを取得します**」オプションを使用できます。

5. 「次へ」をクリックして、「ソース」ページに進みます。選択する製品パッケージがない場合は、製品パッケージが含まれているリポジトリを開く必要があります。

6. リポジトリを開くには、「**リポジトリを開く**」ボタンをクリックします。
「リポジトリを開く」ウィンドウが開きます。

注: リポジトリは、ファイル・システム内のディレクトリーへのパス、1 枚目の製品 CD が挿入されているディスク・ドライブ、またはサーバー上のディレクトリーの URL です。

7. リポジトリ・ロケーションを定義するには、リポジトリ・ロケーションの「**参照**」ボタンをクリックし、リポジトリ・ロケーションにナビゲートして選択します。リポジトリ・ロケーションは、電子ディスク・イメージが含まれている「共通ルート・ディレクトリー」、または 1 枚目の製品インストール CD が挿入されているドライブになります。例えば、Rational Manual Tester ファイル (disk1、disk2 など) が C:\My product\unzip にある場合は、このロケーションをリポジトリとして定義します。
8. 「**OK**」をクリックしてリポジトリ・ロケーションを定義し、「リポジトリ・ディレクトリーの参照」ウィンドウを閉じます。
9. 「宛先」ページで、「**参照**」ボタンをクリックし、製品の保管先として、既存のリポジトリ・ディレクトリーを選択するか、または新規フォルダーを作成します。
10. 選択した製品パッケージおよびフィックス用のリポジトリを指定したら、「**OK**」をクリックして「ディレクトリーを参照」ウィンドウを閉じます。定義したファイル・パスが、「宛先」ページの「**ディレクトリー**」フィールドにリストされます。
11. 「**次へ**」をクリックして、「要約」ページに進みます。「要約」ページに、宛先リポジトリにコピーされる選択済み製品パッケージが表示されます。また、このページには、コピーに必要なストレージ・スペースの量およびドライブ上で使用可能なスペースの量もリストされます。
12. 「**コピー**」をクリックして、選択済み製品パッケージを宛先リポジトリにコピーします。ウィザードの下部に、コピー・プロセスにあとどの位の時間がかかるかを示すステータス・バーが表示されます。コピー・プロセスが終了すると、「完了」ページが開き、正常にコピーされた製品パッケージがすべて表示されます。
13. 「**終了**」をクリックして、Packaging Utility のメインページに戻ります。

Packaging Utility を使用して Rational Manual Tester インストール・ファイルをリポジトリにコピーしました。これで、Web サーバー上にリポジトリを置き、HTTP 上でディレクトリーおよびファイルを使用可能にできます。(リポジトリは、UNC ドライブにも置くことができます。)

ライセンスの管理

インストールした IBM ソフトウェアおよびカスタマイズしたパッケージのライセンス交付は、IBM Installation Manager の「ライセンスの管理」ウィザードを使用して管理されます。「ライセンスの管理」ウィザードには、インストール済みの各パッケージのライセンス情報が表示されます。

一部の Rational 製品の 7.0 以降のバージョンに付属する試用ライセンスは、インストール後 30 日または 60 日で有効期限が切れます。有効期限後に引き続き使用するには、製品をアクティブにする必要があります。

「ライセンスの管理」ウィザードを使用して、プロダクト・アクティベーション・キットをインポートすることで、本製品の試用バージョンを、ライセンス交付を受けたバージョンにアップグレードできます。トライアル・ライセンスまたはパーマネント・ライセンスを持つ本製品に対し、フローティング・ライセンスの適用を有効にして、ライセンス・サーバーのフローティング・ライセンス・キーを使用することもできます。

ご使用の Rational 製品のライセンス管理について詳しくは、以下を参照してください。

- Rational 製品のアクティベーションに関する技術情報: <http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21250404>
- Rational のライセンス交付に関するサポート・ページ: <http://www-306.ibm.com/software/rational/support/licensing/>

ライセンス

IBM Rational ソフトウェア製品の購入者として、許可ユーザー・ライセンス、許可ユーザー期限付使用权 (FTL)、およびフローティング・ライセンスの 3 つのタイプの製品ライセンスの中から選択することができます。どのタイプのライセンスが組織に最適であるかは、製品を使用する人数、アクセス頻度、ソフトウェア購入の方針などによって異なります。

許可ユーザー・ライセンス

IBM Rational 許可ユーザー・ライセンスは、1 人の特定の個人に対して Rational ソフトウェア製品の使用を許可します。購入者は、製品にアクセスする個々のユーザーごとに、何らかの方法でライセンスを入手する必要があります。許可ユーザー・ライセンスの再割り当ては、当初割り当てられていたユーザーを購入者が長期間または永久に置き換える場合を除いて、許可されません。

例えば、許可ユーザー・ライセンスを 1 つ購入した場合、そのライセンスをある特定の個人に割り当てることができます。割り当てられた個人は、Rational ソフトウェア製品を使用することができます。許可ユーザー・ライセンスでは、いかなる場合も (ライセンス交付を受けた個人が製品を使用中でない場合でも) その製品を使用する権利を他者に与えることはありません。

許可ユーザー期限付使用权

IBM Rational 許可ユーザー期限付使用权 (FTL) は、1 人の特定の個人に対して特定期間 Rational ソフトウェア製品の使用を許可します。購入者は、製品にアクセスする個々のユーザーごとに、何らかの方法で FTL を入手する必要があります。許可ユーザー FTL の再割り当ては、当初割り当てられていたユーザーを購入者が長期間または永久に置き換える場合を除いて、許可されません。

注: パスポート・アドバンテージ・エクスプレス・プログラムで許可ユーザー FTL を購入した場合、ライセンス満了前に購入者が IBM に延長を希望しないことを通知しない限り、IBM は現行価格でライセンス期間をさらに 1 年間自動的に延長します。継続 FTL 期間は、最初の FTL 期間の満了時に開始されます。この継続 FTL の価格は、現在、最初の FTL 価格の 80 パーセントですが、変更される可能性があります。

ライセンス期間を延長する意思がないことを IBM に通知した場合は、ライセンス満了時に製品の使用を中止しなければなりません。

フローティング・ライセンス

IBM Rational フローティング・ライセンスは、複数のチーム・メンバーで共用することができる、単一のソフトウェア製品に対するライセンスです。ただし、同時ユーザーの総数は、購入したフローティング・ライセンスの数を超えてはいけません。例えば、Rational ソフトウェア製品のフローティング・ライセンスを 1 つ購入した場合、組織内の任意のユーザーが任意の時期に製品を使用することができます。製品にアクセスしたい他のユーザーは、現行ユーザーがログオフするまで待たなければなりません。

フローティング・ライセンスを使用するには、フローティング・ライセンス・キーを入手して、Rational License Server にインストールする必要があります。サーバーは、ライセンス・キーへのアクセスを要求するエンド・ユーザー要求に応じます。サーバーは、その組織が購入したライセンス数と同じ数のユーザーに、同時にアクセスを許可します。

ライセンスの使用可能化

Rational ソフトウェア製品を初めてインストールする場合、または製品の使用を継続するためにライセンスを延長したい場合に、製品のライセンスを使用可能にする方法を選択します。

Rational Software Development Platform 製品のライセンスを使用可能にするには、以下の 2 つの方法があります。

- プロダクト・アクティベーション・キットをインポートする方法
- Rational Common Licensing を使用可能にし、フローティング・ライセンス・キーにアクセスする方法

注: 一部の Rational 製品の 7.0 以降のバージョンに付属する試用ライセンスは、インストール後 30 日または 60 日で有効期限が切れます。有効期限後に引き続き使用するには、製品をアクティブにする必要があります。アクティベーション

ン・プロセスのフローチャートについては、プロダクト・アクティベーションに関するサポート記事 (support article) を参照してください。

アクティベーション・キット

プロダクト・アクティベーション・キットには、Rational のトライアル製品のパーマネント・ライセンス・キーが含まれています。アクティベーション・キットを購入し、その Zip ファイルをローカル・マシンにダウンロードしてから、その Jar ファイルをインポートし、製品のライセンスを使用可能にします。IBM Installation Manager を使用して、製品にアクティベーション・キットをインポートします。

フローティング・ライセンスの適用

オプションで、フローティング・ライセンス・キーを入手して、IBM Rational License Server をインストールすることで、ご使用の製品にフローティング・ライセンスを適用できます。フローティング・ライセンスを適用すると、次のような利点があります。

- 組織全体におけるライセンス準拠の徹底
- ライセンス購入数の削減
- 同じライセンス・サーバーからの、IBM Rational Team Unifying 用および Software Development Platform デスクトップ製品用のライセンス・キーの供給

注: 一部の Rational 製品の 7.0 以降のバージョンでは、Rational ライセンス・サーバーのアップグレード・バージョンが必要です。ライセンスのアップグレード情報については、サポート記事 (support article) を参照してください。

アクティベーション・キットおよびフローティング・ライセンスの入手方法について詳しくは、ライセンスの購入を参照してください。

インストール済みパッケージのライセンス情報の表示

IBM Installation Manager からインストール済みパッケージのライセンス情報を確認することができます。ライセンス情報には、ライセンス・タイプおよび有効期限が含まれています。

ライセンス情報を表示するには、以下のようにします。

1. IBM Installation Manager を開始します。
2. メインページで「**ライセンスの管理**」をクリックします。

インストールされているパッケージごとに、パッケージのベンダー、現行ライセンス・タイプ、および有効期限が表示されます。

プロダクト・アクティベーション・キットのインポート

パーマネント・ライセンス・キーをインストールするには、IBM Installation Manager を使用して、ダウンロード・ロケーションまたは製品メディアからアクティベーション・キットをインポートする必要があります。

アクティベーション・キットを購入していない場合、まず購入する必要があります。製品またはプロダクト・アクティベーション・キットを購入している場合は、

該当する CD を挿入するか、アクセス可能なワークステーションに IBM パスポート・アドバンテージからアクティベーション・キットをダウンロードするかをいずれかを行います。アクティベーション・キットは、Java アーカイブ (.jar) ファイルを含む Zip ファイルとしてパッケージされています。この .jar ファイルにはパーマネント・ライセンス・キーが含まれています。製品をアクティブにするには、このキーをインポートする必要があります。

アクティベーション・キットの .jar ファイルをインポートして、新しいライセンス・キーを使用可能にするには、次のようにします。

1. IBM Installation Manager を開始します。
2. メインページで「**ライセンスの管理**」をクリックします。
3. パッケージを選択して「**アクティベーション・キットのインポート**」ボタンをクリックします。
4. 「**次へ**」をクリックします。選択したパッケージの詳細 (現行のライセンスの種類、ライセンスの対象となる製品バージョンの範囲など) が表示されます。
5. アクティベーション・キットのメディア CD またはダウンロード・ロケーションのパスを参照して、適切な Java アーカイブ (JAR) ファイルを選択し、「**開く**」をクリックします。
6. 「**次へ**」をクリックします。「**要約**」ページに、アクティベーション・キットのインストール宛先ディレクトリー、新規ライセンスが適用される製品、およびバージョン情報が表示されます。
7. 「**終了**」をクリックします。

パーマネント・ライセンス・キーを含むプロダクト・アクティベーション・キットが製品にインポートされます。「**ライセンスの管理**」ウィザードに、インポートが正常に行われたかどうかが表示されます。

フローティング・ライセンスの使用可能化

チーム環境がフローティング・ライセンスの適用をサポートしている場合は、製品に対してフローティング・ライセンスを使用可能にし、フローティング・ライセンス・キーへのアクセスを取得するように接続を構成することができます。

フローティング・ライセンスの適用を可能にする前に、管理者からライセンス・サーバー接続情報を入手してください。ライセンス・サーバー、ライセンス・キー、および Rational Common Licensing の管理について詳しくは、「*IBM Rational* ライセンス管理ガイド」を参照してください。

「**ライセンス管理ガイド**」の最新版は、http://download.boulder.ibm.com/ibmdl/pub/software/rationalsdp/v7/rcl/701/docs/install_instruction/license_admin.pdf からオンラインで入手可能です。

フローティング・ライセンスを指定のパッケージのライセンス・タイプとして使用可能にし、ライセンス・サーバー接続を構成するには、次のようにします。

1. Rational Software Development Platform の IBM Installation Manager で、「**ファイル**」 → 「**開く**」 → 「**ライセンスの管理**」の順をクリックします。
2. パッケージのバージョンを選択して、「**フローティング・ライセンス・サポートの設定**」ボタンを選択します。

3. 「次へ」をクリックします。
4. 「フローティング・ライセンスの適用を可能にする」ボタンをクリックします。
5. 1 つ以上のライセンス・サーバー接続を構成します。
 - a. 「サーバー」テーブルの空フィールドをクリックするか、「追加」ボタンをクリックします。
 - b. 管理者から冗長サーバー環境の情報が提供されている場合、「冗長サーバー」ボタンをクリックします。1 次サーバー、2 次サーバー、および 3 次サーバーの、名前とポートのフィールドが表示されます。
 - c. 「名前」フィールドに、ライセンス・サーバーのホスト名を入力します。
 - d. (オプション) ファイアウォールを使用している環境では、「ポート」フィールドに値を入力します。管理者から指示がない限り、このポートには値を割り当てないでください。
 - e. 冗長サーバー環境の場合、2 次サーバーと 3 次サーバーの名前および (必要に応じて) ポートを入力します。
 - f. (オプション) 「接続のテスト」ボタンをクリックして、接続情報が正しいかどうか、サーバーが使用可能であるかどうかを確認できます。
 - g. 「OK」をクリックします。
6. 「次へ」をクリックします。
7. (オプション) シェル共有パッケージまたはカスタム・パッケージのライセンス使用順序を構成します。リスト内のライセンスの順序によって、ご使用のパッケージが特定のライセンス・パッケージのライセンス・キーへのアクセス取得を試みる順序が決定されます。
8. 「終了」をクリックします。

「ライセンスの管理」ウィザードに、フローティング・ライセンスの構成が正常に行われたかが示されます。

これによって、使用可能にした製品を次回開いた際に、ライセンス・サーバーに接続して、使用可能なフローティング・ライセンス・キーのプールからライセンス・キーを入手することができます。

ライセンスの購入

現行の製品ライセンスの有効期限が切れる場合、またはチーム・メンバー用に追加の製品ライセンスが必要な場合は、新規ライセンスをご購入いただけます。

ライセンスを購入して製品を使用可能にするには、以下のステップを完了してください。

1. 購入するライセンスのタイプを決定します。
2. ibm.com[®] にアクセスするか、IBM 営業担当員に連絡を取り、製品ライセンスを購入します。詳しくは、IBM Web ページのソフトウェアのご注文方法をご覧ください。
3. 購入したライセンス・タイプに応じて、受け取ったライセンス証書を使用し、以下のいずれかを実行して製品を使用可能にします。
 - 製品の許可ユーザー・ライセンスを購入した場合は、パスポート・アドバンテージにアクセスし、記載されている説明に従って、プロダクト・アクティベーター

ション・キットの Zip ファイルをダウンロードします。アクティベーション・キットをダウンロードしたら、Installation Managerを使用して、プロダクト・アクティベーションの .jar ファイルをインポートする必要があります。

- 製品のフローティング・ライセンスを購入した場合は、IBM Rational ライセンスおよびダウンロード (IBM Rational Licensing and Download) サイト へのリンクをクリックして、ログインし (IBM への登録が必要です)、次に IBM Rational ライセンス・キー・センター (IBM Rational License Key Center) に接続するためのリンクを選択します。そこで、ライセンス証書を使用して、ご使用のライセンス・サーバーのフローティング・ライセンス・キーを取得できます。

オプションで、パスポート・アドバンテージにアクセスして、製品のアクティベーション・キットをダウンロードすることもできます。アクティベーション・キットをインポートした後に、長期間 PC をオフラインで使用する場合は、フローティング・ライセンス・タイプからパーマネント・ライセンス・タイプに切り替えることができます。

この後、アクティベーション・キットをインポートするか、製品のフローティング・ライセンス・サポートを使用可能にする場合は、IBM Installation Manager の「ライセンスの管理」ウィザードを使用します。

Rational Manual Tester の開始

Rational Manual Tester は、デスクトップ環境またはコマンド行インターフェースから開始できます。

この製品をデスクトップから開始する場合は、「スタート」 → 「プログラム」 → 「**IBM Rational Manual Tester**」 → 「**IBM Rational Manual Tester**」をクリックします。

Rational Manual Tester をコマンド行から開始する場合は、以下のようにします。

- `<product installation directory>%rtmt.exe`

インストールの変更

IBM Installation Manager の「パッケージの変更」ウィザードで、インストール済み製品パッケージの言語およびフィーチャーの選択を変更できます。

デフォルトでは、リポジトリ設定がローカル更新サイトを指していない限り、インターネットへのアクセスが必要になります。詳しくは、Installation Manager のヘルプを参照してください。

注: Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じてから、変更を開始してください。

インストール済み製品パッケージを変更するには、以下のようになります。

1. Installation Manager の「スタート」ページから、「パッケージの変更」アイコンをクリックします。
2. 「パッケージの変更」ウィザードで、Rational Manual Tester 製品パッケージのインストール・ロケーションを選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「言語」の「変更」ページでパッケージ・グループの言語を選択して、「次へ」をクリックします。パッケージのユーザー・インターフェースおよびドキュメンテーションについて、対応する各国語翻訳がインストールされます。この選択は、このパッケージ・グループにインストールされたすべてのパッケージに適用されることに注意してください。
4. 「フィーチャー」ページで「次へ」をクリックします。Rational Manual Tester にはフィーチャーが 1 つしかないため、除去できません。
5. インストール・パッケージを変更する前に「要約」ページで選択内容を確認し、次に「変更」をクリックします。
6. オプション: 変更プロセスが完了したら、「ログ・ファイルの表示」をクリックして完了ログを確認します。

Rational Manual Tester の更新

IBM Installation Manager でインストールされたパッケージの更新をインストールできます。

デフォルトでは、リポジトリ設定がローカル更新サイトを指していない限り、インターネットへのアクセスが必要になります。

各インストール済みパッケージには、それぞれのデフォルトの IBM 更新リポジトリのロケーションが組み込まれています。Installation Manager が IBM 更新リポジトリ・ロケーションでインストール済みパッケージを検索するには、「リポジトリ」の設定ページで「インストールと更新を行っている間にサービス・リポジトリをサーチします」の設定を選択する必要があります。この設定はデフォルトで選択されています。

詳しくは、Installation Manager のヘルプを参照してください。

注: Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じてから、更新を開始してください。

製品パッケージの更新を検索してインストールするには、次のようにします。

1. Installation Manager の「スタート」ページで、「**パッケージの更新**」をクリックします。
2. IBM Installation Manager がシステム上で検出されない場合、または以前のバージョンが既にインストールされている場合は、最新のリリースをインストールして続行する必要があります。ウィザードのスクリーン内の指示に従って、IBM Installation Manager のインストールを完了します。
3. 「パッケージの更新」ウィザードで、更新する Rational Manual Tester 製品パッケージがインストールされているパッケージ・グループのロケーションを選択するか、「**すべて更新 (Update All)**」チェック・ボックスを選択して、「**次へ**」をクリックします。Installation Manager は、そのリポジトリ内、および Rational Manual Tester の事前に定義した更新サイトで更新を検索します。進行状況表示に検索状況が表示されます。
4. パッケージの更新が検出されると、「パッケージの更新」ページの該当するパッケージの下の「**更新**」リストにそれらが表示されます。デフォルトでは、推奨される更新のみが表示されます。「**すべてを表示**」をクリックすると、使用可能なパッケージに対して検出されたすべての更新が表示されます。
 - a. 更新の詳細を知りたい場合は、「更新」をクリックし、「**詳細**」の下の説明を参照してください。
 - b. 更新に関する追加情報が入手可能な場合は、説明本文の最後に「**詳細情報**」リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、ブラウザーに情報が表示されます。更新をインストールする前に、この情報を確認しておくようにしてください。

5. インストールする更新を選択するか、「**推奨を選択**」をクリックしてデフォルトの選択を復元します。依存関係のある更新は、自動でまとめて選択およびクリアされます。
6. 「**次へ**」をクリックして続けます。
7. 「ライセンス」ページで、選択した更新のご使用条件を読みます。「**ライセンス**」ページの左側に、選択した更新のライセンスのリストが表示されます。各項目をクリックすると、ご使用条件の本文が表示されます。
 - a. ご使用条件のすべての条項に同意する場合は、「**使用条件の条項に同意します**」をクリックします。
 - b. 「**次へ**」をクリックして続けます。
8. 更新をインストールする前に「**要約**」ページで選択内容を確認します。
 - a. 前のページで行った選択を変更したい場合は、「**戻る**」をクリックして変更を行います。
 - b. そのままで問題なければ、「**更新**」をクリックし、更新をダウンロードしてインストールします。進行状況表示にインストールの完了パーセントが表示されます。

注: 更新プロセス中に、**Installation Manager** がパッケージの基本バージョンのリポジトリ・ロケーションの入力を求めるプロンプトを表示することがあります。製品を CD またはその他のメディアからインストールした場合は、更新機能を使用するときそれらのメディアを使用できるようにしておく必要があります。
9. オプション: 更新プロセスが完了すると、プロセスの成功の確認を求めるメッセージがページの上部に表示されます。「**ログ・ファイルの表示**」をクリックして、新規ウィンドウで現行セッションのログ・ファイルを開きます。続行するには、「**インストール・ログ**」ウィンドウを閉じる必要があります。
10. 「**終了**」をクリックしてウィザードを閉じます。

Rational Manual Tester のアンインストール

Installation Manager の「アンインストール」パッケージ・オプションを使用すると、1 つのインストール・ロケーションから複数のパッケージをアンインストールできます。すべてのインストール・ロケーションからインストール済みのすべてのパッケージをアンインストールすることもできます。

パッケージをアンインストールするには、製品パッケージをインストールするために使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムにログインする必要があります。

パッケージをアンインストールするには、以下のようにします。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. 「スタート」ページで「パッケージのアンインストール」をクリックします。
3. 「パッケージのアンインストール」ページで、アンインストールする Rational Manual Tester 製品パッケージを選択します。「次へ」をクリックします。
4. 「要約」ページでアンインストールするパッケージのリストを確認してから「アンインストール」をクリックします。アンインストールが終了すると、「完了」ページが表示されます。
5. 「終了」をクリックしてウィザードを終了します。

更新のロールバック

「パッケージのロールバック」ウィザードを使用すると、パッケージに対して行った更新を除去して前のバージョンに戻すことができます。

ロールバック・プロセスの際、Installation Manager は以前のバージョンのパッケージのファイルにアクセスする必要があります。デフォルトではこれらのファイルは、パッケージのインストール時にシステムに保管されます。ファイルを使用できない場合、リポジトリからパッケージをインストールした場合は、「設定」(「ファイル」>「設定」>「リポジトリ」)に、前のバージョンの製品のインストールに使用したリポジトリがリストされているはずですが、製品を CD またはその他のメディアから製品をインストールした場合は、ロールバック機能を使用するときにそれらのメディアを使用できるようにしておく必要があります。

製品パッケージの更新を適用した場合は、ロールバック機能を使用して、更新を除去して前のバージョンの製品に戻すことを、後で決定します。ロールバック機能を使用すると、Installation Manager は更新されたリソースをアンインストールし、前のバージョンからリソースを再インストールします。ロールバックできるのは一度に 1 つのバージョン・レベルのみです。

ロールバック・ウィザードの使用法の詳細については、Installation Manager のヘルプを参照してください。

更新されたパッケージをロールバックする場合は、次の手順に従ってください。

1. 「スタート」ページで、「パッケージのロールバック」をクリックし、ロールバック・ウィザードを開始します。
2. 「インストール・パッケージ」リストで、ロールバックするパッケージを選択します。
3. 画面上の説明に従ってウィザードを完了します。

オプション・ソフトウェアのインストール

以下のオプション・ソフトウェアが Rational Manual Tester インストール・イメージに組み込まれています。

- IBM Rational ClearCase® LT バージョン 7.0

ClearCase LT のインストール

Rational ClearCase LT は、小規模なプロジェクト・チーム向けの構成管理ツールです。ClearCase LT は、小規模なプロジェクト・ワークグループから、分散されたグローバル企業まで対応する、IBM Rational ClearCase 製品ファミリーの一部です。

インストール・メディアには、Rational ClearCase LT バージョン 7.0.0.0 が入っており、Rational Manual Tester とは別にインストールされます。

ClearCase LT が既にワークステーションにインストールされている場合は、それを現行バージョンにアップグレードできます。旧バージョンからのアップグレードについては、ClearCase LT のインストール文書を参照してください。

ClearCase LT のインストール説明およびリリース情報の探索

Rational ClearCase LT をインストールする場合の詳細な説明については、ClearCase LT インストール・メディアに添付されているインストール文書を参照してください。また、製品のインストール前に、ClearCase LT リリース情報を一読されることを強くお勧めします。

一部の文書は、Acrobat PDF ファイルになっています。ファイルを開くには、Adobe Reader ソフトウェアが必要です。これは、<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep2.html> からダウンロードできます。

Windows の場合: インストールの説明およびリリース情報は、ClearCase LT インストール・ランチパッドから表示できます。64 ページの『Rational ClearCase LT のインストールの開始』を参照してください。

インストールの説明を開くには、次のようにします。

1. Windows の場合: 1 枚目の ClearCase LT インストール CD (または電子イメージのディスク・ディレクトリー) から、`doc\books\install.pdf` を開きます。
「*IBM Rational ClearCase, ClearCase MultiSite®, and ClearCase LT Installation and Upgrade Guide, Version 7.0*」(Windows) が開きます。

IBM Publications Center からの文書の取得

Rational ClearCase LT のインストール説明およびリリース情報は、IBM Publications Center からダウンロードすることもできます。

1. <http://www.ibm.com/shop/publications/order> にアクセスします。
2. Publications Center の「Welcome」ページで、国/地域を選択する。
3. 「マニュアル検索」をクリックします。

4. 該当する検索フィールドに、文書タイトルまたは資料番号を入力します。
 - 文書をタイトルで検索するには、「キーワード」フィールドにタイトルを入力します。
 - 文書を資料番号 (資料 ID) で検索するには、「資料番号」フィールドに番号を入力します。

表 1. ClearCase の資料番号

文書	資料番号
IBM Rational ClearCase、ClearCase MultiSite、ClearCase LT Windows インストールおよびアップグレードガイド	GI88-8709-00
IBM Rational ClearCase、ClearCase MultiSite、ClearCase LT インストールおよびアップグレードガイド (UNIX®)	GI88-8710-00
IBM Rational ClearCase LT Release Notes®	GI88-8713-00

Rational ClearCase LT のインストールの開始

このセクションでは、Rational ClearCase LT のインストール・プロセスの開始について説明します。製品をインストールする場合は、「Rational ClearCase LT Installation Guide」に記載の詳細なインストール説明を参照してください。インストールの前に、リリース情報を一読されることを強くお勧めします。

Windows への Rational ClearCase LT のインストールの開始

1. 次のいずれかの方法を使用して、Rational ClearCase LT ランチパッド・プログラムを開始します。
 - Rational Manual Tester ランチパッド・プログラム (23 ページの『ランチパッド・プログラムの開始』を参照) から、「**Rational ClearCase LT**」をクリックします。
 - Rational ClearCase LT の 1 枚目の CD を挿入します。ランチパッド・プログラムが自動的に始動します。プログラムが実行されない場合は、その CD またはディスク・イメージのルートから、`setup.exe` を実行してください。
2. リリース情報をまだ読んでいない場合は、一読します。
3. 「**IBM Rational ClearCase LT のインストール**」をクリックします。Rational ClearCase LT セットアップ・ウィザードが開きます。

セットアップ・ウィザードの指示に従って、インストールを完了します。

Rational ClearCase LT ライセンスの構成

Rational Manual Tester が Rational ClearCase LT と同じコンピューターにインストールされている場合は、Rational ClearCase LT のライセンスの構成を行う必要はありません。しかし、Rational ClearCase LT を Rational Manual Tester なしでインストールする場合は、ClearCase LT のライセンスの構成を行う必要があります。

ライセンスの構成について詳しくは、ClearCase LT のインストール・ガイドを参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
20 Maguire Road
Lexington, Massachusetts 02421-3112
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

- IBM
- ClearCase
- ClearQuest
- Lotus Notes
- Rational

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan

GI88-4074-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12